

はしやす 箸休め ゆず香

平尾台特産、ユズのおつまみ/箸休め ゆず香



焼酎に合わせた“箸休め ゆず香”



小倉駅コンコースの売り場



“箸休め ゆず香”3種

取組概要

- ユズ収穫による地域興しと里山の整備を期待し、長期保存可能な特産品を開発。食べ継がれた味を「箸休め ゆず香」と名付けて製造。
- 日本で唯一の加工品のため、食べ方やいわれを示した和英の葉も付け、海外からの訪問者にも対応。
- 平尾台自然の郷、合馬農産物直売所などのほか、JR新幹線小倉駅コンコースや北九州空港等でも販売。H28年は約1600個販売。

活動成果

- 収穫されないユズを加工し特産品に。地元有名店や近郊の駅・空港で販売。高級なお土産や贈答品として、地域の観光振興につながっている。
- 農家からは傷のあるユズも高価で買い取ってもらえると喜ばれている。
- 「日本で唯一のユズのおつまみ 平尾台特産／箸休め ゆず香」というブランドの浸透で、自然豊かな平尾台・三谷地区へ観光客が増えている。

箸休め ゆず香

福岡県北九州市小倉南区志井鷹羽台25-6

Tel : 093-961-5273 Fax : 同左

いのくら

猪倉農業関連プロジェクト

学生が酒造？ 地域と築くシビックプライド！



学生と地元酒造による芋焼酎づくり



学生と地域住民による共同作業



芋焼酎「平尾台」の
宣伝販売

取組概要

- 2009年に北九州市立大学に地域創生学群が創設され、その実習を行う学生グループとして発足。
- 地域課題の「耕作放棄地・過疎高齢化・放棄竹林」に着目し、地域住民とともに共同農作業や竹林整備を実施。
- 収穫祭、地域の祭りなどの地域行事での出店活動や出し物、生産した野菜・加工品の買い物難民対策としての移動販売・訪問販売、耕作放棄地で生産した芋を使用した焼酎づくりを推進。

活動成果

- 生産した野菜や加工品を移動販売することで、地産地消の仕組みができた。
- 同じ場所に同じ地域の人々が集うことで、ふれあいの機会が増加し、地域コミュニティが活性化。訪問販売で独居高齢者の安否確認にも繋がっている。
- 芋を栽培して、産官学域連携により芋焼酎を作り、販売まで行うことで、地域ブランドを確立し、地域住民に誇り「シビックプライド」を持ってもらえるようになった。

猪倉農業関連プロジェクト

福岡県北九州市小倉南区北方四丁目2番1号2-330

Fax : 093-964-4216

やめ 八女商工会議所

八女から伝える 山の食文化の復興！



地元飲食店が提供するジビエ料理の一例

開発中のイノシシ革製品

取組概要

- 鳥獣被害に歯止めをかけ、「猪」を新たな地域資源として活用するため、H24年から「ジビエプロジェクト」を開始。
- イノシシ肉の安定供給のため、箱罠に猪が入った時点で食肉処理業者に連絡する体制を整備。
- 有名シェフを招いた料理教室、地元飲食店10店舗（H28年）で八女産イノシシ肉を1ヶ月間味わう「八女ジビエマンス」の開催、カレー、ハム、ソーセージ等の商品開発、テストマーケティングを推進。

活動成果

- 地元では、猪肉を近所から頂く風習があり、猪肉への負の先入観（固い・臭い）が強かったが、5年間の取組により、メディア取材等も増え、地元のジビエに対する評価が変化した。
- 常時猪肉料理を提供する飲食店が現れるとともに、民間企業が処理場建設を検討し始め、今後の進展が期待できる。
- 伝統工芸の技術を活かし、副産物の革を活用した革製品の試作も行っており、新たな資源での商品化も期待できる。

八女商工会議所

福岡県八女市本村425-22-2

Tel : 0943-22-5161 Fax : 0943-22-5164

「H28九州農政局むらの宝」に選定

「ディスカバーむらの宝(第4回)」に選定

やめ 八女地域連携協議会

旅する茶のくに～地域を活かした交流事業～



旅する茶のくに週間、金箔体験



旅する茶のくにバス、黒木町の大藤



香港人向けインバウンドバスツアー

取組概要

- 平成25年より、伝統工芸や農業、食、観光体験を活用した八女独自の着地型旅行商品を企画実施。
- 現地での体験がメインの「旅する茶のくに週間」(32体験)、久留米市のJR・西鉄駅を発着地とするガイド付き「旅する茶のくにバス」(ツアー数29)を実施。平成28年より香港人向けツアーも実施。
- 福岡市中心部に開設したアンテナショップ「八女本舗」で、農産物直売と併せて着地型旅行商品の募集販売を実施。

活動成果

- 年間を通じた体験プログラム、観光ツアーにより、都市部からの観光客が増加。インバウンド需要も見込めるため、英語スタッフを雇用予定。
- 八女人ガイド(現地案内人)という新たな地域ツーリズムビジネスになっている。
- アンテナショップでは、農産品・加工品の直売により、農業者の生産意欲と所得増加に貢献。旅行商品販売や観光PRなど情報発信基地としても大きな役割を果たしている。

八女地域連携協議会(茶のくに観光案内所)

福岡県八女市本町2-129

Tel : 0943-23-1192 Fax : 0943-22-7311

「H29九州農政局むらの宝」に選定

ほしのむら がんばりよるよ星野村

都市との協働で災害復旧から地域復興へ！



耕作放棄地の再利用



移住体験・交流施設

取組概要

- 平成24年の九州北部豪雨の被災地域の復興には災害復旧後の営農支援や観光交流の推進などが課題であった。
- 平成26年度から、農山村地域でのCSR活動に興味のある県内11の企業、大学等と5年間の協定を結び協働活動を実施。活動内容ごとに分科会を設置。
- 再生耕作放棄地での米やソバ栽培、荒廃林の果樹公園への転換、茶種子油を用いたスキンケア商品づくり、古民家の移住体験・交流施設への整備等を推進。

活動成果

- 農作業支援は、高齢化で草刈等が出来ない地域で環境や景観、多面的機能などの保全に大きな効果があった。また、社員の団結にも繋がった。
- 放棄茶園が増える中で、茶種子油の商品化は地域農家から高く評価されるとともに、企業の社員等は新鮮で安全安心な農林産物の購入を喜んでいる。
- 移住体験施設の開設は、コンサートなどのイベント開催による都市住民との交流が地域活性化につながっている。

NPO法人がんばりよるよ星野村

福岡県八女市星野村13102-1番地

Tel: 0943-24-8353

Fax: 0943-24-8383

ほしのむら 星野村農産加工施設「星の里」利用組合

頑張り続ける気持ちとヤル気が村の宝です。



グッドデザインに輝いた「ほしのほし野菜」

高齢者の経験が生きる味噌作り

保育園児の味噌作り体験

取組概要

- 平成23年に「ほしのほし野菜(ナス、玉ねぎ、カボチャ等)」を開発。原料の野菜は地元農家との契約栽培により調達。
- 今回の豪雨被害の被災地朝倉地区の出荷できなくなった玉ねぎを復興支援の一助として買い取り、ほし野菜に加工。
- 平成元年より始めた味噌は当初、生産販売だけであったが、村内の中学生、小学生・保育園児まで味噌作り体験を行い、本物の麴から作る手作り味噌を見て、食べて、体感してもらっている。

活動成果

- 味噌作りは全国から視察に来られるようになり、本物の良さを知ることによって、味噌作り体験の希望者も増え、口コミ等で広がり、販売へも繋がっている。
- ほし野菜は、生産販売を続けたことで生産農家の活性化に役立ち、ほし野菜の視察も急増し、他地域の活性化に一役かっており、交流を続けている。
- 構成員である高齢者の知恵を活かしながら活躍する場となっており、笑顔と元気が出て、楽しんで喜ばれている。

星野村農産加工施設「星の里」利用組合
福岡県八女市星野村4540

Tel : 0943-52-2204 Fax : 0943-52-2214

ほうちく 豊築漁業協同組合

「本物の獲れたて」豊前の魚で地域おこし



漁業者による対面販売



漁業者から買い上げた魚を利用した定食



地元産ハモを利用した
「はもどっく」

取組概要

- 豊前海では、旬の時期に同一魚種が大量に水揚げされ、供給過多で値崩れを起こしていた。
- そこで、H21年に組合直営の「漁師食堂 うのしま豊築丸」を開業し、漁業者から直接買い上げ、食材として利用。
- H28年、市の海業支援施設「うみてらす 豊前」の指定管理者となり、直売所・加工所を開設。漁師食堂も移設。水揚げ直後の魚介類の直売や廃棄されていた雑魚のすりみ等への加工・販売も実施。

活動成果

- 魚価の下支えや市場までの輸送コストの縮減、水産業の6次産業化の実現で漁業者の所得が向上。消費者と直に触れることで、漁業者の勤労意欲も向上。
- 加工所では「浜のかあちゃん組」を雇用することで、女性の活躍の促進と同時に魚さばき技術の継承にも貢献。
- 東九州自動車道の全線開通に合わせPR活動を実施したことで、福岡都市圏や大分・宮崎方面からの来客も増えており、豊前市の観光振興にも寄与。

豊築漁業協同組合

福岡県豊前市大字宇島76番地31

Tel : 0979-83-2228 Fax : 0979-83-2391

えだがわうち

枝川内あじさい祭り実行委員会

ちいさな村の大きな挑戦！日本一のアジサイランド



1万5千株のあじさいが咲き乱れる枝川内地区



取組概要

- H13年に基盤整備後の法面活用としてアジサイを植栽。H22年から「枝川内あじさい祭り」を毎年開催。
- アジサイの増植は、植栽会、剪定会を開催し、都市住民の参加者を募り、実施。あじさい祭りでは、集落の農産物の他、新たな特産品「求菩提(くぼて)そば」のそば打ちの実演・販売、地域の米を「あじさい米」として予約販売も実施。
- H25年に集会所を食事処として開店。地元食材を活かした食事を提供。

活動成果

- あじさい祭りの来訪者(H29年は6,500人集客)へ、岩屋地域を情報発信することで、観光客が急増。地域観光産業へ大きな経済効果となっている。
- 「求菩提そば」の販売も伸び、あじさい米を提供することで、新たな消費者の発掘につながり、営農組合の米販売が増加している。
- 祭りの開催を通じて、集落が一体となることで、地域コミュニティが強化され、農村の共存共益社会が再構築されている。

枝川内あじさい祭り実行委員会

福岡県豊前市大字大河内301-3

Tel : 0979-88-2002 Fax : 同左

おごおり 小郡 ほし 星の会

農業とものづくり文化のこだわり発信



「星のであい展」での「久光農園」の様子



「翔工房」の機織り体験



「久光農園」の6次化商品展示

取組概要

- 会員は、織物、洋服仕立て、ドライフラワー、寄せ植えや苔玉販売等の多彩なものづくり作家で構成。
- 平成16年から、毎年10月末の金土日の3日間、小郡市内の会員の自宅やギャラリー6ヶ所を解放して展示や販売、ワークショップを行う「星のであい展」を開催。毎年1千人ほどが来場。
- パンフレット作りから広報活動、会場企画まで一年をかけ会議を重ね、開催している。

活動成果

- 年に一度のイベントで、高齢者や若者も無理なく出展し、参加が可能となっており、家族や地域の会話も増え、生きがいの発見にもつながっている。
- 会場が分散していることで、地域を広く体験するきっかけとなり、地域や異文化の交流が生まれ、新たな顧客の獲得に結びついている。
- 会員の「久光農園」が6次化法認定の「規格外苗木の個性的な姿を活かした寄せ植え販売事業」を創出。

星の会 事務局 久光農園(久光壽子)
福岡県小郡市小郡1883-9

Tel : 0942-72-3756 Fax : 0942-72-9132

さといち あんずの里市利用組合

No.1ではなく、オンリー1を目指す！



「あんず祭り」のイベント



スーパーマーケット跡にて毎週買い物支援

取組概要

- 農家が運営主体となった直売所(H8年開設)でレストランも併設し、地元野菜を活用した料理も提供。収穫祭等のイベントや試食会等のPR活動を展開。
- 学校給食等への食材の提供の他、閉店したスーパー跡で毎週木曜日に青空市を開催するなど、生活支援も実施。
- 長野県の道の駅と交流。冬場に野菜を送り、りんご等を取寄せる連携を実施。今年は豪雨被害にあった朝倉市支援のため、朝倉産の野菜・桃・巨峰も販売。

活動成果

- イベントやPR活動で、地元農産物の良さが地域住民に認識され、学校給食への供給量が増加し、地元産が50%を超えている。直売所等の売上も増加。他産地との連携はお互いの地域で高評価。
- 青空市は、スーパーの撤退により、車で買い物に行けない高齢者など500人ほどの買い物弱者を支援。
- 20年の歴史ある直売所として視察も多く、海外を含め、年間30件以上の直売所研修を受け入れ。

あんずの里市利用組合

福岡県福津市勝浦1667-1

Tel : 0940-52-5995

Fax : 0940-52-5999

つづら棚田を守る会

多様な主体によって守られる棚田の景観



つづら棚田の景観



畔塗り作業



稲刈り作業

取組概要

- H18年に設立。構成員は地区内外の40人。久留米市の企業等も参加。つづら棚田約6haのうち、高齢化等で耕作できない方の約1.1ha(54枚)の棚田を耕作。
- 1枚1枚の面積が小さく、手作業の場合もあり、また広範囲に分散しているため、水の管理に苦労するなど困難を伴いながら耕作を継続。
- 棚田の景観を活かし、9月の「彼岸花めぐり&ばさら祭り」、10月の「棚田のお月見会」などの交流イベントを開催。

活動成果

- 棚田の景観が保たれており、彼岸花のイベントでは毎年約1万人以上を集客するなど年間を通じて多くの方が足を運んでいる。
- イベントへ来た方に棚田のお米や農産物を購入していただくことによって、お米等の価値がブランド化され、棚田の食のファンになっていただいている。
- 大学や企業等に棚田の営農を学ぶ機会も提供。この縁で企業の店舗にうきはの展示コーナーを設けていただいた。

つづら棚田を守る会事務局 うきは市役所うきはブランド推進課

福岡県うきは市浮羽町朝田582-1

Tel : 0943-76-9059 Fax : 0943-77-5557

くすもりどう 楠森堂

あるものを活かし魅力発信！ 地域に元気と誇りを！



在来種の茶畑。株ごとに品種が異なるため、様々な緑色が混在



秋の蔵開き。能イベント

校庭茶園再興の取組支援

取組概要

- H18年、脱サラし、実家の荒廃した茶園（日本古来の実生の在来茶園）5haの再興に向け独学で茶栽培に取り組む。
- H22年、ホームページを立ち上げ、ブログにて希少な在来茶のPRとともに、地域の自然、歴史等を情報発信。地元小学校の校庭の荒廃茶園の復活を支援。
- H23年より土蔵でひと夏寝かせた「蔵出し茶」を発売開始。文化財指定の実家を一般公開し、地域と連携しジャズ等の音楽会、能、狂言等のイベントを開始。

活動成果

- 情報発信を継続したことで、全国から在来茶を求め楠森堂を訪れるようになるとともに、文化誌、業界誌、様々なメディアから取材依頼を受けるようになった。
- ニューヨークの日本茶専門店から「蔵出し茶」の味わいが高く評価され、H27年から取引を開始。
- 地元小学校や地域にも深く関わり、地域を担う子ども達の地域への愛着と誇りを育むとともに、人を呼び込むきっかけをつくり、地域の活性化に貢献。

楠森堂

福岡県うきは市浮羽町山北2056

Tel : 0943-77-4019 Fax : 同左

農事組合法人 モア・ハウス

女性が輝く、九州屈指のきのこ産地！



モア・ハウス役員と女性職員の皆さん



クリーンなぶなしめじの栽培



主婦目線で開発した
こだわりの加工品

取組概要

- H9年に農家の主婦4名で、町の特産物であるきのこの生産法人を設立。
- ぶなしめじ栽培に取り組むとともに、栽培後に排出される菌床を堆肥としてグリーンアスパラガスを栽培。
- H10年以来、年間95回以上、きのこの対面試食販売を実施。そのときの消費者の声がきっかけで、「きのこご飯の素」や「焼きエリンギ」など9種類をH16年より商品化。きのこのもぎ採り体験や農業研修生の受入も実施。

活動成果

- ぶなしめじ、アスパラガス栽培は産地形成に寄与するとともに、売上高1億7000万円(H28実績)の企業へと成長。
- 「きのこご飯の素」など加工品は手間いらずと好評で、年間3000個を売り上げ、地元を代表するヒット商品となっている。
- 農業で自立する女性を増やしたいとの思いで始めた軽量野菜のアスパラガス栽培での農業研修生受入では、これまで11人を受入、うち8人(うち女性3人)が独立、就農。

農事組合法人 モア・ハウス

福岡県三潴郡大木町上木佐木527番1

Tel : 0944-32-1588 Fax : 0944-32-1625